

社団法人 日本循環器学会
2007 年度評議員会 議事録

日 時 2008 年（平成 20 年）3 月 28 日（金） 19 時 15 分～20 時 30 分
場 所 ホテルオークラ福岡（4 階 平安）
〒812-0027 福岡市博多区下川端町 3-2
TEL：092-262-1111（代表）

評議員現在数：220 名
出席評議員数：216 名（内 委任状出席 45 名）
その他出席者：名誉会員 9 名、特別会員 17 名、2008 年度就任評議員 83 名

・議 事

- 第 1 号議案 2007 年度事業報告
2005・2006 年度会費未納による退会会員報告
- 第 2 号議案 2006 年度決算報告（追認）
- 第 3 号議案 2007 年度収支予算の修正
- 第 4 号議案 2008 年度事業計画及び収支予算承認
- 第 5 号議案 定款施行細則の変更
- 第 6 号議案 循環器専門医制度について
- 第 7 号議案 新評議員・新正会員代表の報告
- 第 8 号議案 新理事・新監事の選出
- 第 9 号議案 委員会報告
- 第 10 号議案 新名誉会員・新特別会員の承認
- 第 11 号議案 第 73 回学術集會会長挨拶
第 74・75 回学術集會会長の承認
- 第 12 号議案 その他

・議事の経過及び結果

定刻になり、第 72 回松崎益徳会長から評議員現在数及び出席評議員数を報告、定数を満たしたので会議の成立が確認され、定款第 26 条の定めにより松崎会長が議長となり開会。資料にある 22 名の物故会員に対し、黙禱が捧げられた。

続いて議長から議事録署名人に山口徹・堀正二両理事を指名し了承され、議事に入った。

第 1 号議案 2007 年度事業報告
2005・2006 年度会費未納による退会会員報告
議長から、2007 年度における事業の概要について、資料のとおり報告された。続いて、2005・2006 年度会費が未納である会員 307 名について経過が説明され、これらの会員の退会について承認された。

第 2 号議案 2006 年度決算報告（追認）
議長より、資料 20～26 ページまでの一般会計、専門医特別会計、学術集會特別会計、支部特別会計及び地方会特別会計の 2006 年度会計について、昨年 6 月理事会にて承認され、会告にて会員へ通知している旨報告があり、追認された。

第 3 号議案 2007 年度収支予算の修正
議長より、当初予算に未計上であった事業や内容を見直し、2007 年度収支予算の補正を行った。資料 27～32 ページの通りであり、今年 1 月理事会で承認された旨説明があり、承認された。

第 4 号議案 2008 年度事業計画及び収支予算承認
議長より、今年 1 月理事会で承認された資料 33～42 ページの 2008 年度事業計画及び収支予算について説明があり、承認された。

第 5 号議案 定款施行細則の変更

議長より、昨年の評議員会において承認された選挙制度の変更、また学会運営の実態に合わせた修正について資料の通り提案され、承認された。

第 6 号議案 循環器専門医制度について

土居委員長より下記の通り報告があった。

循環器専門医の所定単位表について、2008 年 4 月 1 日以降は ACLS 受講者への研修単位加算が廃止されることに伴い、従来の「本会が実施する教育プログラム」との記載を、「本会が実施する ACLS 講習会インストラクター」へ変更する。また、学術集会（地方会）演者への研修単位加算廃止に伴い、「演者」の欄を規定から削除する。

2008 年 4 月 1 日認定となる循環器専門医は資料のとおり 640 名である。

2008 年度に指定及び指定更新となる研修・研修関連施設は下記のとおりである。

- ・ 2008 年度指定研修施設数 47、研修関連施設数 50
- ・ 2008 年度指定更新研修施設数 508、研修関連施設数 119

第 7 号議案 新評議員・新正会員代表の報告

議長より、2007 年度に施行された選挙により選出された 2008 年度就任評議員および正会員代表が資料の通り報告され、承認された。

第 8 号議案 新理事・新監事の選出

議長より、2008 年度就任の理事及び監事について、選挙を行う旨指示があった。地区別定数による連記・無記名投票の結果、2008 年度就任の理事及び監事が次の通り選出された。なお任期は 2008 年 3 月 30 日から 2009 年度総会開催日までである。

< 外科系理事 > 高本眞一、坂田隆造

< 支部選出理事 > 島本和明、下川宏明、和泉 徹、小川 聡、島田和幸、永井良三、水野杏一、児玉逸雄、室原豊明、山岸正和、北 徹、友池仁暢、堀 正二、堀江 稔、松崎益徳、土居義典、小川久雄、鄭 忠和

< 監 事 > 青沼和隆、今泉 勉

新理事長は、新理事による互選の結果、小川 聡理事が選ばれた旨報告された。

以上について、承認された。

第 9 号議案 委員会報告

1) 教育研修委員会

北委員長より下記の通り報告があった。

第 72 回学術集会での教育セッションを 3 セッション選定した。

2007 年度製作分として循環器研修ビジュアルシリーズ 2 巻を製作した。

第 3 回循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナーを 2007 年 7 月 8 日（日）に開催した。

ライブ・デモンストレーション実施要項について理事長からの諮問を受け、島本和明委員をワーキンググループの長として作成した。

2) 循環器救急医療委員会

笠貫委員長より下記の通り報告があった。

組織改編を行い、委員会名変更とともに JCS-ITC 運営小委員会、蘇生科学小委員会、循環器救急医療制度小委員会の 3 つの小委員会を設けた。

2007 年 3 月に AHA と International Training Center としての契約を結び、ファカルティ、インストラクターを養成。2007 年度には 500 名を超える受講者が AHA ACLS コースを修了した。

蘇生科学の分野で日循がリーダー的な役割を果たすため、日本蘇生協議会主催の第 1 回蘇生科学シンポジウムを学術集会前日に開催した。

循環器救急医療制度小委員会として循環器救急についてのアンケート調査を行った。

以上の委員会報告および資料に掲載されている他の委員会報告について、一括して承認された。

第 10 号議案 新名誉会員・新特別会員の承認

議長より、山口徹先生を 2008 年度の名誉会員として、大江透先生・笠貫宏先生を 2008 年度の特別会員として理事会が推薦している旨報告があり、承認された。

第 11 号議案 第 73 回学術集会会長挨拶及び第 74・75 回学術集会会長の承認

1) 第 73 回学術集会報告

堀正二会長から次のとおり報告があった。

会期は 2009 年 3 月 20 日(金)～22 日(日)とし、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテルを中心に開催する。

メインテーマを「リスクに挑戦する循環器病学 - 新たな展望と戦略 - 」とし、Cardiovascular risk だけでなく、循環器学が直面しているリスク、社会的なリスクに対して果敢に挑戦していくという思いを込めたテーマを選んだ。

美甘レクチャーには再生医学で有名な Dr. Piero Anversa、真下記念講演には大阪大学審良静男先生、特別講演についても資料に記載のとおり 7 名を予定している。ライブデモンストレーションについても教育セッションのビデオライブとして開催する。

市民公開講座も開催予定である。

2) 第 74 回学術集会報告

第 74 回学術集会会長として北徹先生(京都大学大学院医学研究科循環器内科学)が承認された。続いて北徹会長より、会期を 2010 年 3 月 5 日(金)～7 日(土)とし、国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都を中心に開催する旨、報告された。

3) 第 75 回学術集会報告

第 75 回学術集会会長として小川聡先生(慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科)が承認された。続いて小川聡会長より、2011 年 4 月初旬に開催される医学会総会(東京)の直前に横浜での開催を予定している旨、報告された。

第 12 号議案 その他

1) 『循環器学用語集 第 3 版』作成報告

山口理事長から、2004 年から作業を行っていた『循環器学用語集』の第 3 版が完成し、4 月には会員に配布される旨報告があった。

また今後の用語改訂作業のため用語委員会を常設し、新しい用語等はホームページに公開するという形で対応していく予定である。

2) WCC 招致準備委員会報告

WCC 招致準備委員会の松森昭委員長から以下の通り報告があった。

WCC 開催は、2006 年にスペイン(バルセロナ)、2008 年 5 月アルゼンチン(ブエノスアイレス)、2010 年中国(北京)開催と、2006 年以降、4 年毎の開催から 2 年毎に改められた。

2012 年以降の開催地については、未決定で、「南アフリカ連邦(ケープタウン)、ドバイ、シンガポール、メキシコ、日本」が立候補している状態である。

日本開催の誘致については、2012 年アジア以外での開催の場合、2014 年に立候補するのが望ましいのではないかと取り組んでいる。

2012 年及び 2014 年開催地は、2008 年アルゼンチン終了後に決定の予定であるため、誘致活動を活発に進めていきたい。

以上について、承認された。

3) APCC2009 報告

APCC2009 の北島顕会長から以下の通り報告があった。

APSC 事務局を 2006 年 1 月に日本で開設後、事務局運営も軌道に乗ってきている。

APCC2009 開催は、2009 年 5 月 20 日～23 日に京都で開催する。

APCC2009 の参加者は国内から 1,000 名、海外から 1,500 名の規模を想定しており、プログラム委員の松森昭先生、和泉徹先生、鄭忠和先生、吉川純一先生と共にプログラムを編成中で本年 5 月には完

成の予定である。

APCC2009 開催は、JCS2009 開催の 2 ヶ月後であるが、多くの先生方に参加をして頂きたい。以上について、承認された。

4) 山口理事長からの活動報告および謝辞

山口徹理事長から、2 年の任期を終えるにあたって任期中の活動報告と謝辞があった。社会への貢献と国際化をテーマとし、医学のみならず医療に対しても大きく踏み出した。専門医および指定研修施設の公表もその一環である。また国内学会間の連携のために国内交流委員会を、コメディカルとの連携のためにコメディカル委員会を新設した。インターネットによる会員へのニュース配信により、随時情報を提供する体制も整えた。また評議員選挙制度を変更し、外科系およびその他の分野の会員が評議員になれるようにした。さまざまな場面で諸先生方に支えられ、任期を全うさせて頂いたことに感謝するとともに、今後の学会運営について諸先生方の益々のお力添えをお願いしたい。

以上をもって本日の議事を終了し、議長が長時間の協力に謝辞を述べて閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長ならびに議事録署名人、これに署名押印する。

2008 年 3 月 28 日

社団法人 日本循環器学会 2007 年度評議員会

議 長

議事録署名人

同

(以下余白)